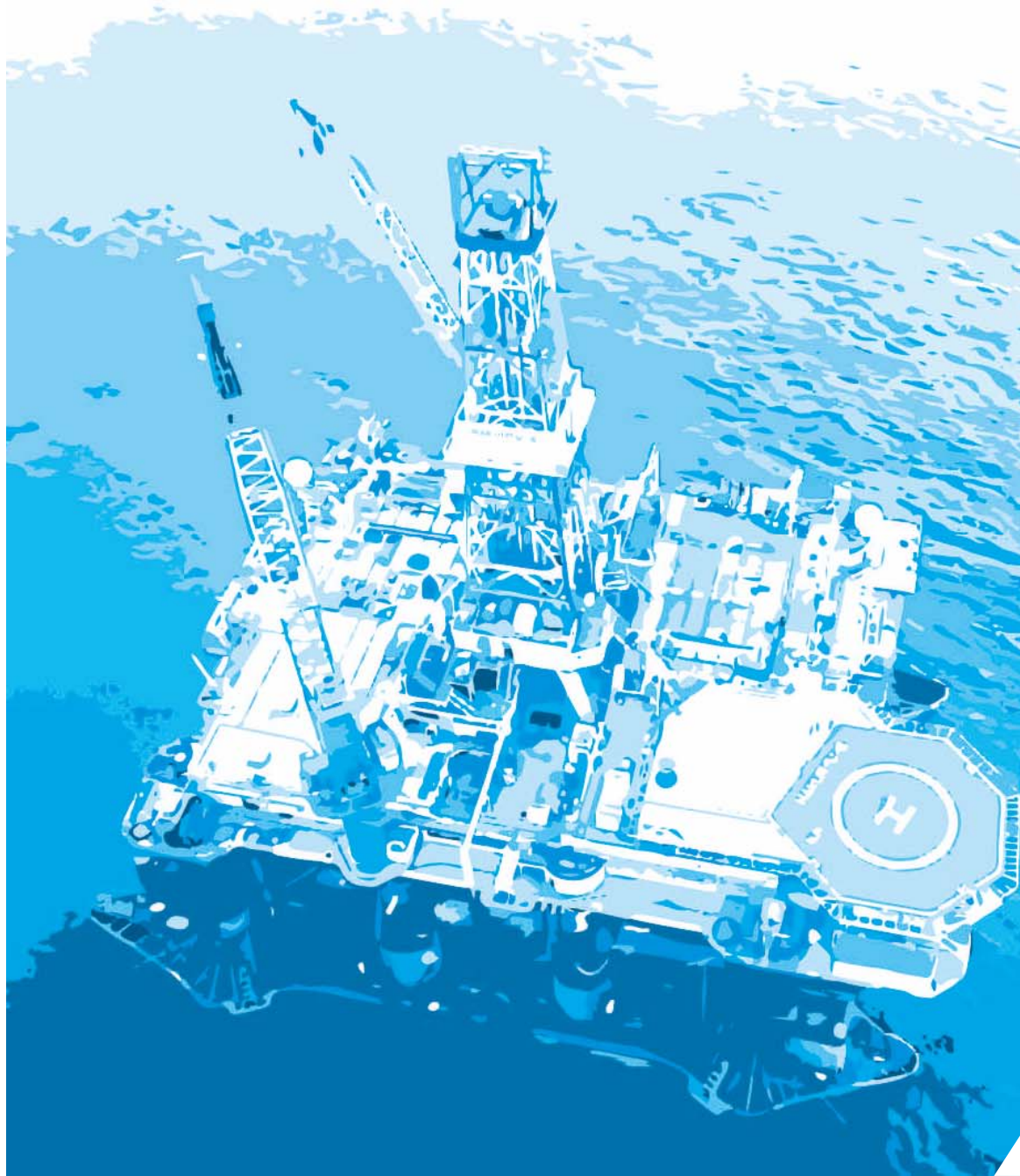


2017年3月期 決算説明資料

2017年5月11日開示



日本海洋掘削株式会社

1. マーケットレビュー

代表取締役社長 市川 祐一郎

2. 2017年3月期 決算概要

代表取締役副社長執行役員 山田 健造

3. 2018年3月期 通期業績予想

代表取締役副社長執行役員 山田 健造

4. 事業環境の変化に対応する経営戦略

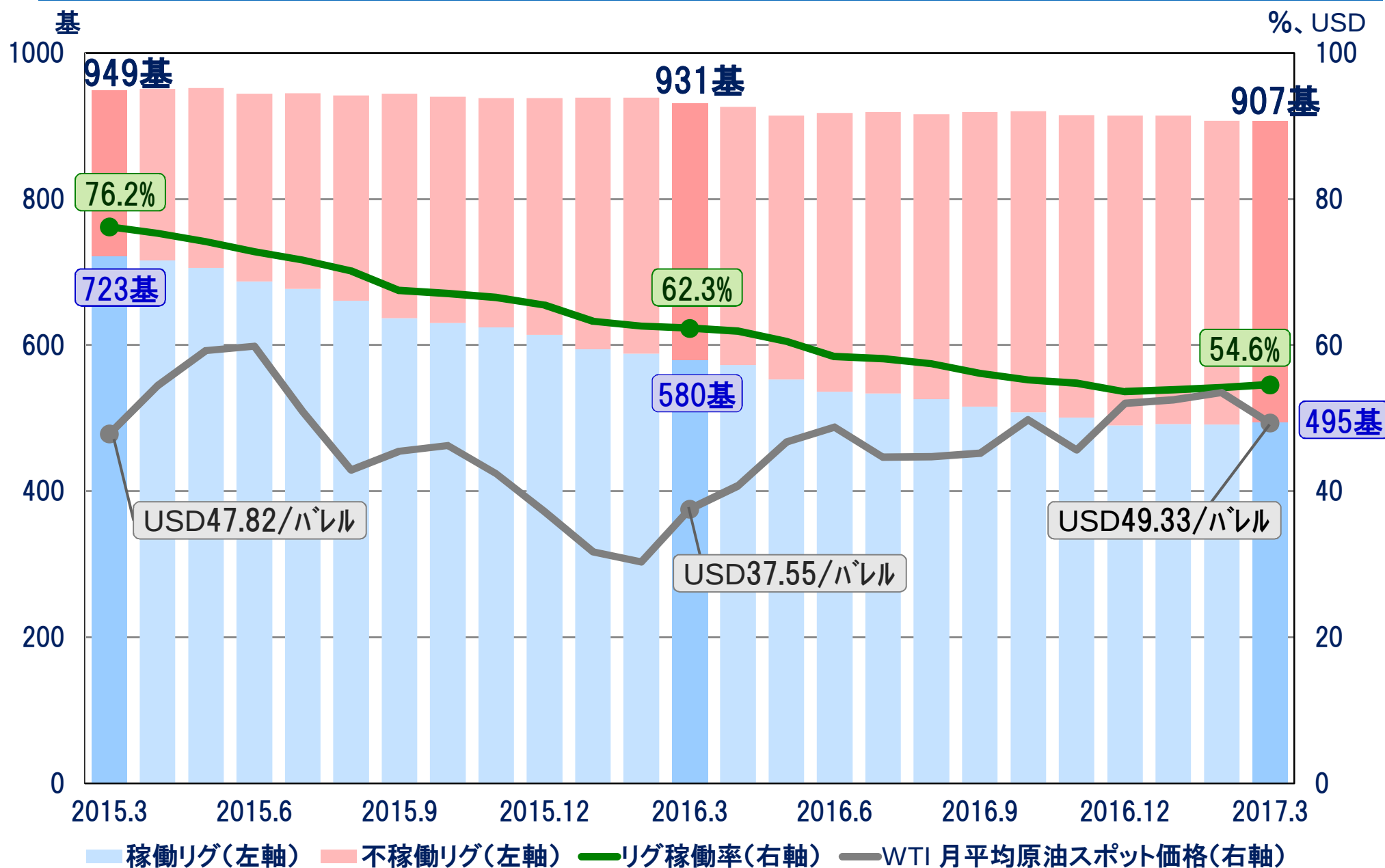
代表取締役社長 市川 祐一郎

1.マーケットレビュー

代表取締役社長

市川 祐一郎

原油価格とリグ数・稼働率の推移



主要海域別リグ稼働状況

2017年3月時点

世界全体

↓	907基(-24基)
↓	495基(-85基)
↓	54.6%(-7.7P)

北西ヨーロッパ

↑	108基(+1基)
↓	57基(-17基)
↓	52.8%(-16.4P)

地中海・黒海

↑	32基(+3基)
↑	18基(+1基)
↓	56.3%(-2.3P)

メキシコ湾(米国側)

↓	98基(-16基)
↓	31基(-13基)
↓	31.6%(-7.0P)

メキシコ湾(メキシコ側)

↓	50基(-2基)
↓	29基(-6基)
↓	58.0%(-9.3P)

中東

↑	176基(+11基)
↓	116基(-15基)
↓	65.9%(-13.5P)

極東

↑	57基(+2基)
↑	40基(+1基)
↓	70.2%(-0.7P)

インド洋

↑	51基(+4基)
↑	45基(+1基)
↓	88.2(-5.4P)

東南アジア

↓	112基(-7基)
↓	55基(-1基)
↓	49.1%(-2.0P)

南米

↓	97基(-12基)
↓	51基(-15基)
↓	52.6%(-8.0P)

西アフリカ

↓	72基(-7基)
↓	29基(-16基)
↓	40.3%(-16.7P)

その他(カスピ海等)

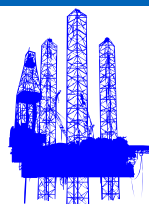
↓	54基(-1基)
↓	24基(-5基)
↓	44.4%(-8.3P)

稼働海域

上段:総リグ数(前期比)
中段:稼働リグ数(前期比)
下段:リグ稼働率(前期比)

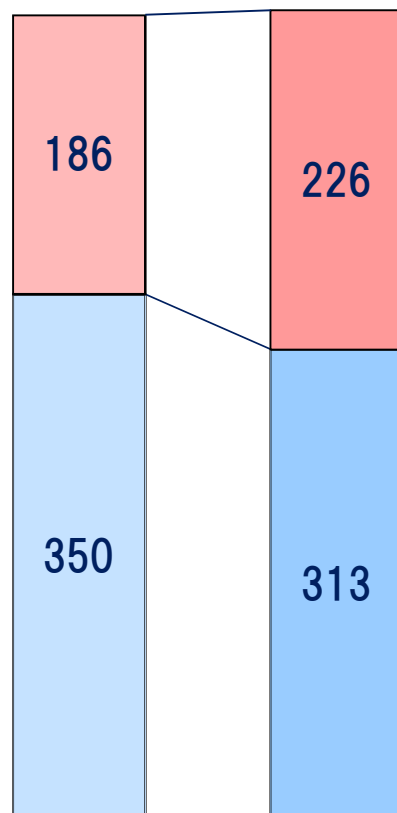
タイプ別リグ数・稼働率の推移

基

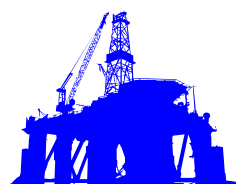


ジャッキアップ

2016年3月 536 → 2017年3月 539

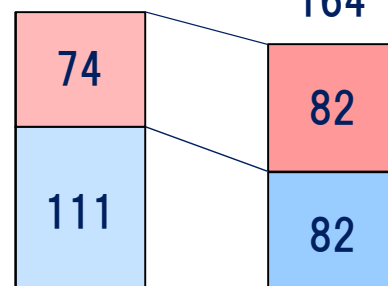


リグ稼働率
65.3% → 58.1%
(-7.2P)



セミサブ

2016年3月 185 → 2017年3月 164

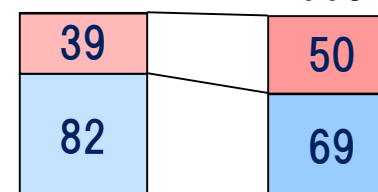


リグ稼働率
60.0% → 50.0%
(-10.0P)



ドリルシップ

2016年3月 121 → 2017年3月 119



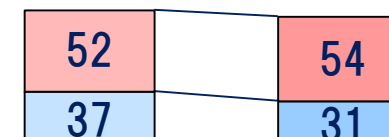
リグ稼働率
67.8% → 58.0%
(-9.8P)

不稼働リグ

稼働リグ

その他

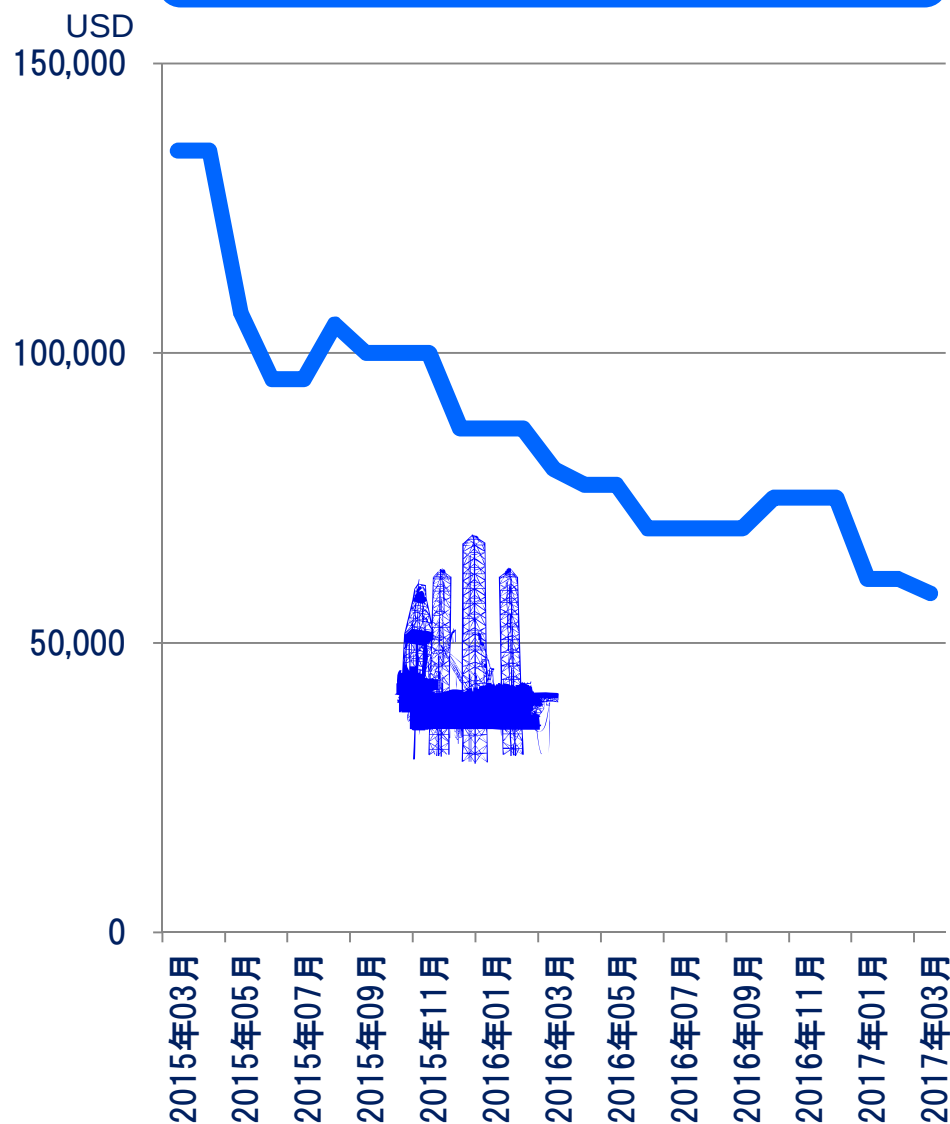
2016年3月 89 → 2017年3月 85



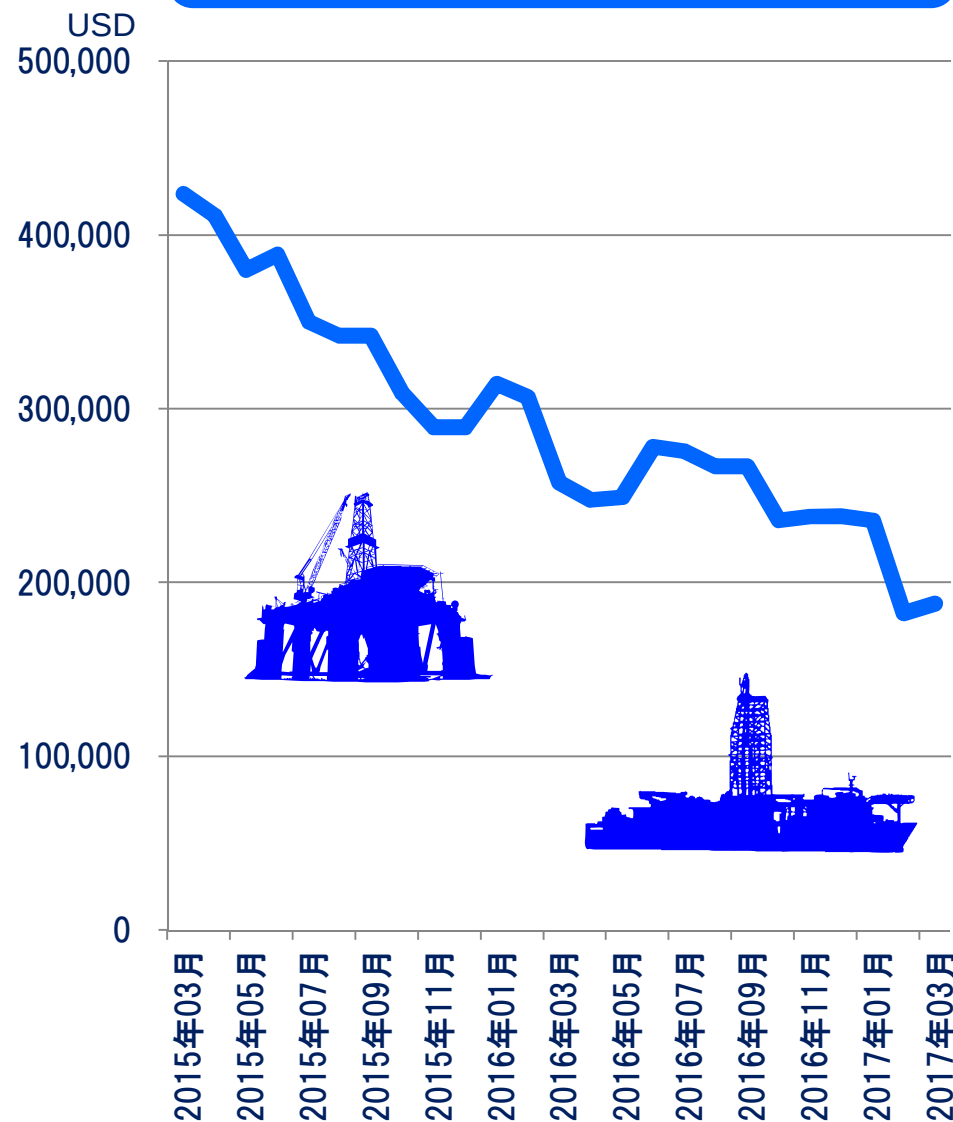
リグ稼働率
41.6% → 36.5%
(-5.1P)

リグタイプ別デイレートの推移

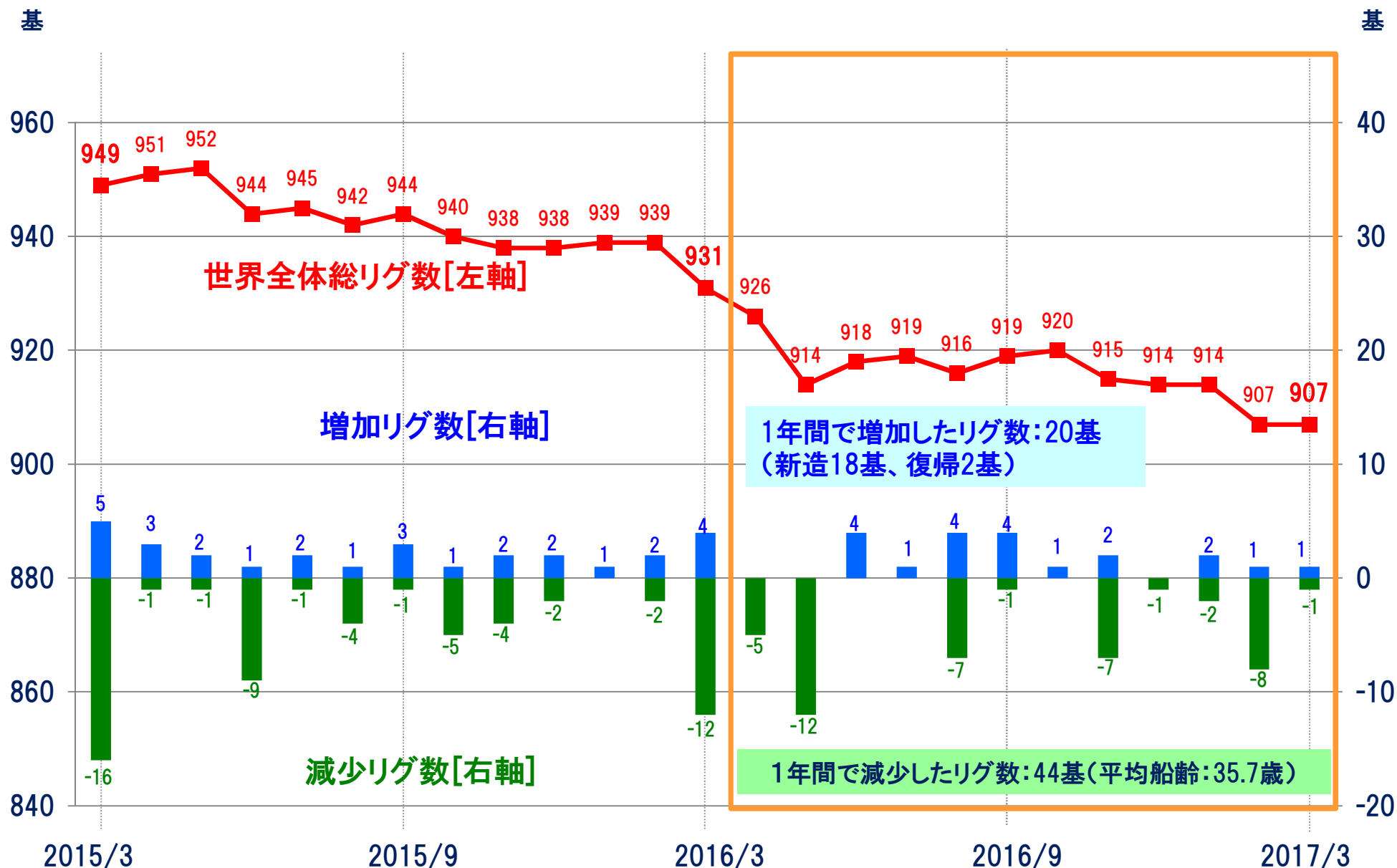
ジャッキアップ
(最大稼働水深360ft超)



フローター
(最大稼働水深7,500ft超)

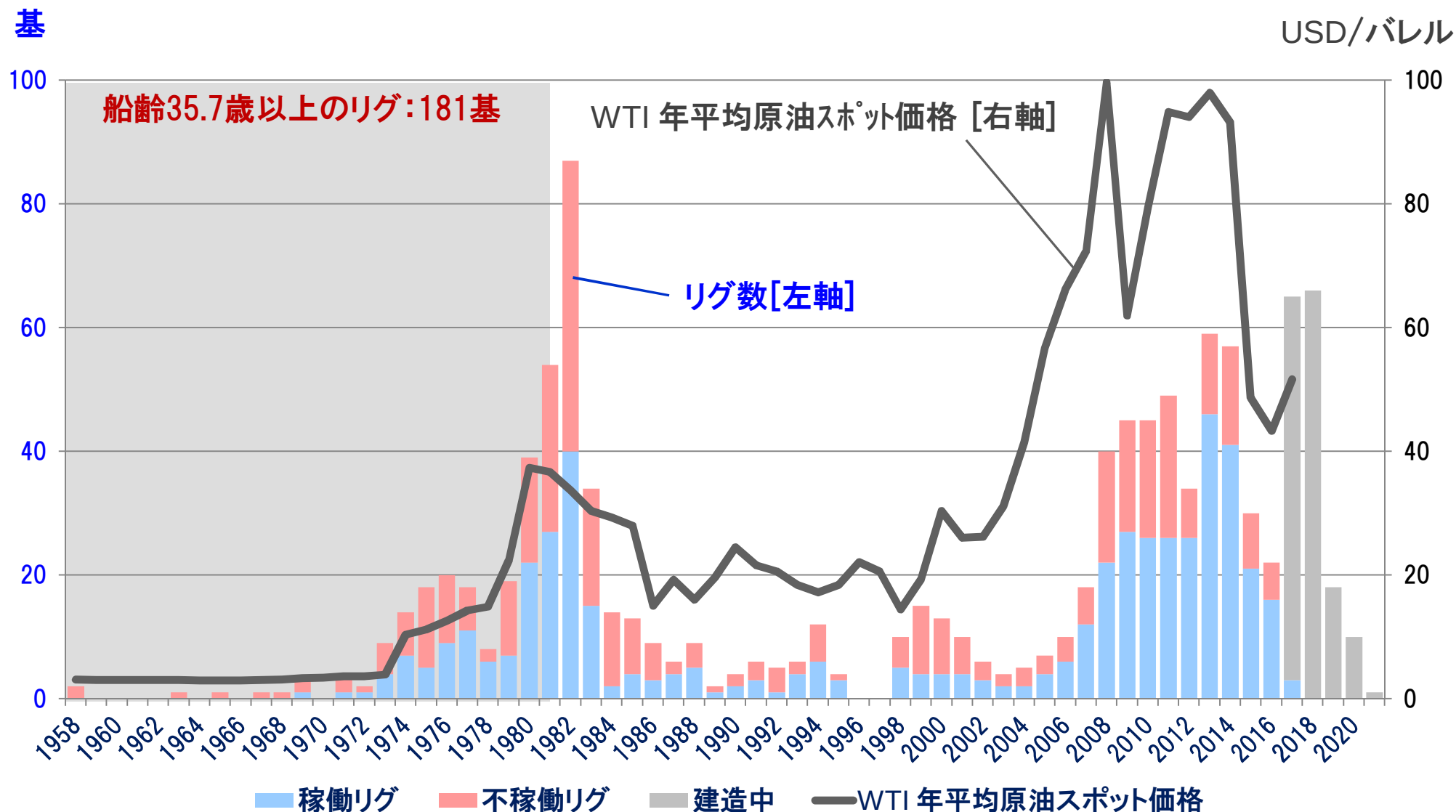


総リグ数とリグ数増減の推移



原油価格と建造リグ数の推移

2017年3月：総リグ数907基、建造中リグ数157基

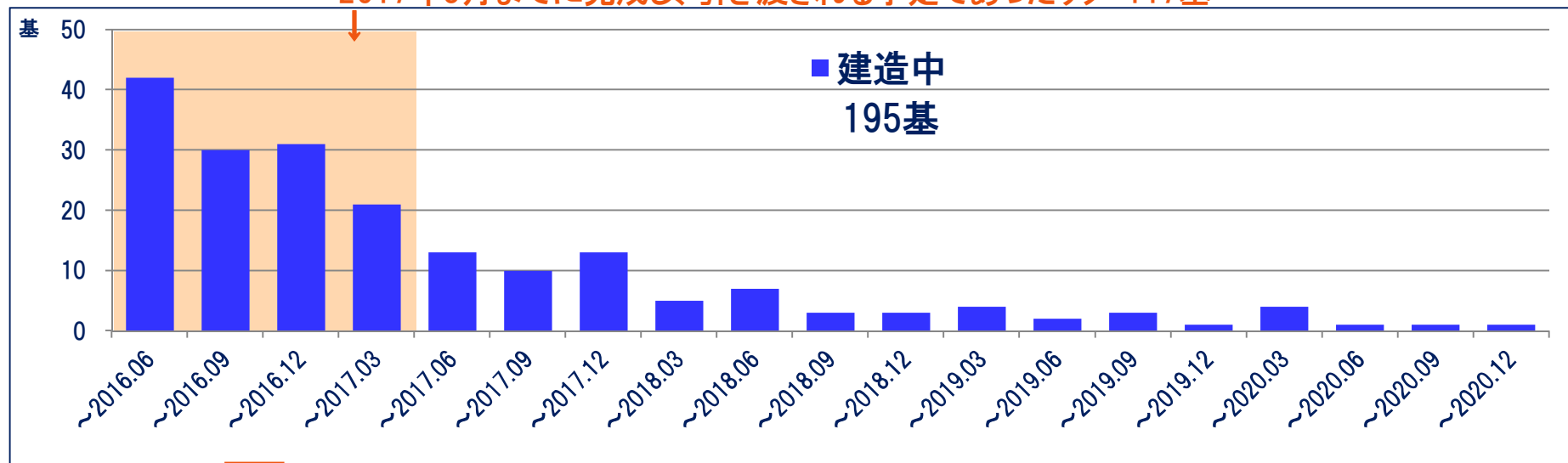


延期されるリグの完成引渡時期

建造中リグ(2016年3月時点)195基の完成引渡予定日の動向

2016年3月

2017年3月までに完成し、引き渡される予定であったリグ:117基



2017年3月

2017年3月までに完成し、引き渡されたリグ:18基



1年前建造中であったリグ195基の現在の状況			
完成引渡済			18
建造中	(完成引渡延期なし)	24	157
	(完成引渡延期あり)	133	
建造中断			20
合計			195

2. 決算概要

2017年3月期

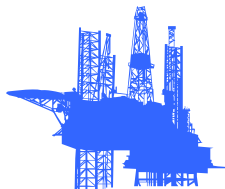
代表取締役副社長執行役員

山田 健造

当社グループ運用リグの状況

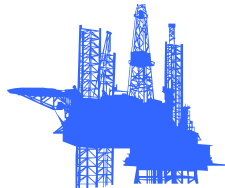
2017年3月末時点

「SAGADRIL-1」



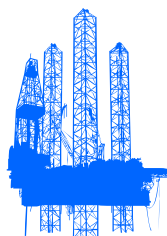
待機、保守・整備
[アラブ首長国連邦]

「SAGADRIL-2」



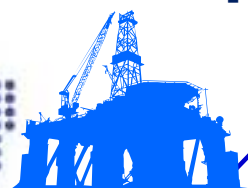
待機、保守・整備
[アラブ首長国連邦]

「HAKURYU-12」



待機、保守・整備
[アラブ首長国連邦]

「HAKURYU-5」



操業準備中
[ベトナム]

「HAKURYU-14」
(仮称)



「HAKURYU-15」
(仮称)



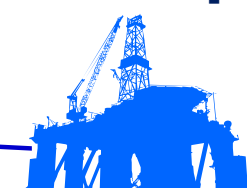
シンガポールで建造中

「ちきゅう」
JAMSTEC所有



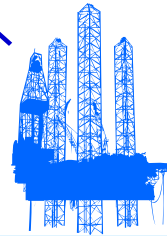
待機、保守・整備
[静岡県清水港]

「NAGA 1」



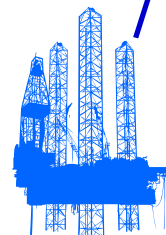
待機、保守・整備
[マレーシア]

「HAKURYU-11」



待機、保守・整備
[マレーシア]

「HAKURYU-10」



待機、保守・整備
[インドネシア]

リグフリート操業実績

		1Q			2Q			3Q			4Q		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	HAKURYU-5	TNK社 ベトナム											
	SAGADRIL-1										Bundug社 アラブ首長国連邦		
	SAGADRIL-2												
	HAKURYU-10	Total E&P社 インドネシア											
	HAKURYU-11	PVD社 ベトナム											
	HAKURYU-12												
	NAGA 1		PCSB社 マレーシア										
	ちきゅう	JAMSTEC 日本	JMH社 日本						JAMSTEC 日本				

完工
 科学掘削
 待機、保守・整備

(顧客先の正式社名は巻末の略語集をご参照ください)

連結損益計算書(前期比)



単位:百万円 (百万円未満切捨て)	2016年3月期	2017年3月期	増減	増減率
売上高	36,227	15,376	△20,850	△57.6%
売上原価	35,376	23,898	△11,478	△32.4%
販売費及び一般管理費	3,400	2,541	△859	△25.3%
営業利益	△2,550	△11,063	△8,512	-
営業外収益	342	300	△41	△12.1%
営業外費用	1,011	753	△257	△25.5%
経常利益	△3,219	△11,516	△8,296	-
特別利益	-	-	-	-
特別損失	115	10,936	+10,820	-
税金等調整前当期純利益	△3,335	△22,452	△19,117	-
法人税等	3,491	485	△3,006	△86.1%
非支配株主に帰属する当期純利益	191	115	△75	△39.7%
親会社株主に帰属する当期純利益(※)	△7,017	△23,053	△16,035	-
1株当たり当期純利益(円)	△389.89	△1,280.76	△890.87	-

「ちきゅう」 : △6,870百万円
「HAKURYU-12」 : △4,447百万円
「HAKURYU-10」 : △3,563百万円
「SAGADRIL-2」 : △1,947百万円
「HAKURYU-11」 : △1,690百万円
「HAKURYU-5」 : △1,666百万円

「ちきゅう」 : △6,277百万円
「HAKURYU-12」 : △2,669百万円
「HAKURYU-11」 : △1,910百万円
「HAKURYU-10」 : △1,328百万円
「SAGADRIL-2」 : △1,099百万円
「SAGADRIL-1」 : △826百万円
リース契約損失 : +2,820百万円
引当金繰入額

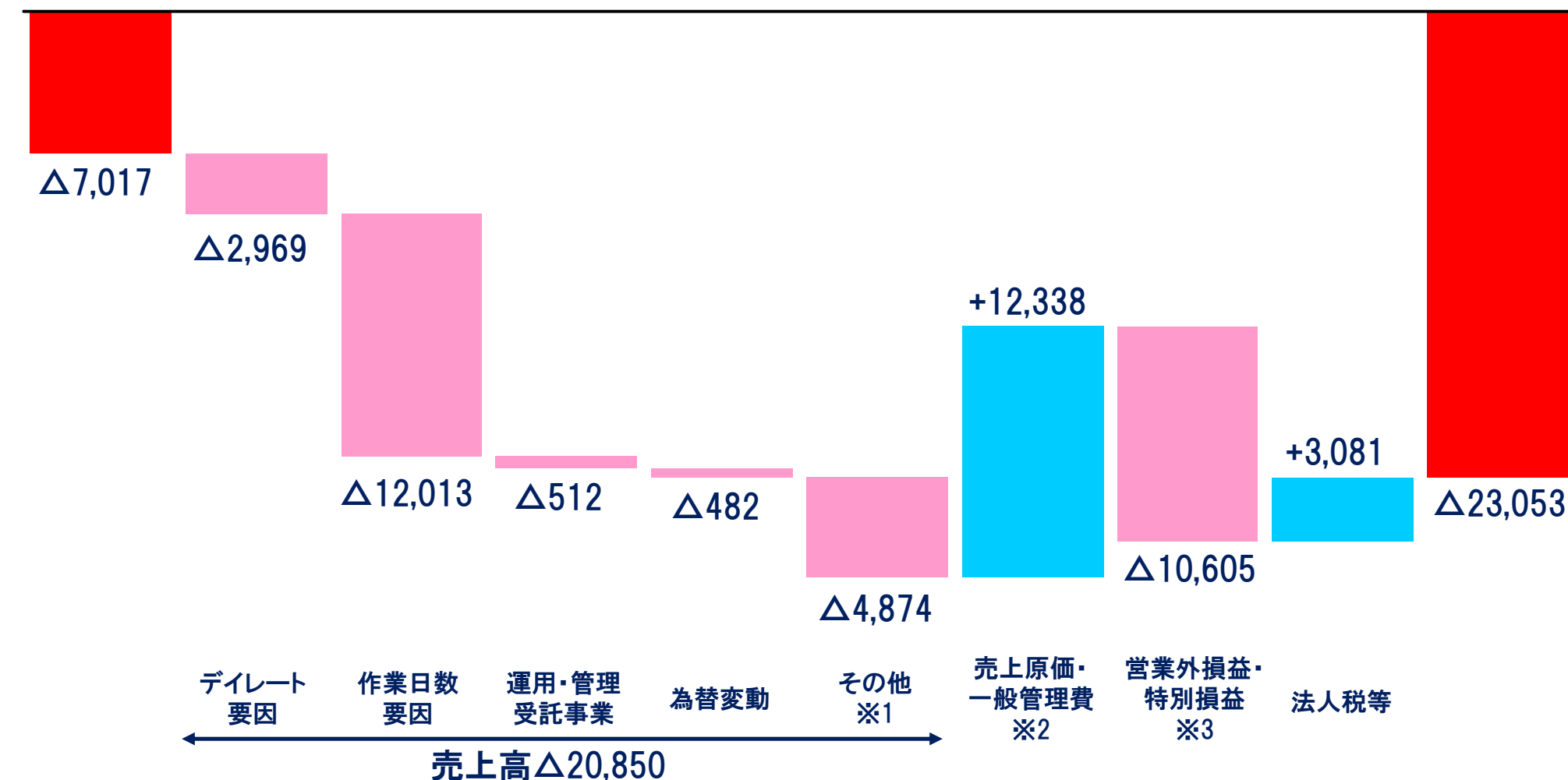
減損損失 : +10,904百万円

期中平均為替レート
2016年3月期:121.12円/USD
2017年3月期:110.10円/USD

※以下、本資料では「当期純利益」と略します。

当期純利益の増減分析(前期比)

単位:百万円

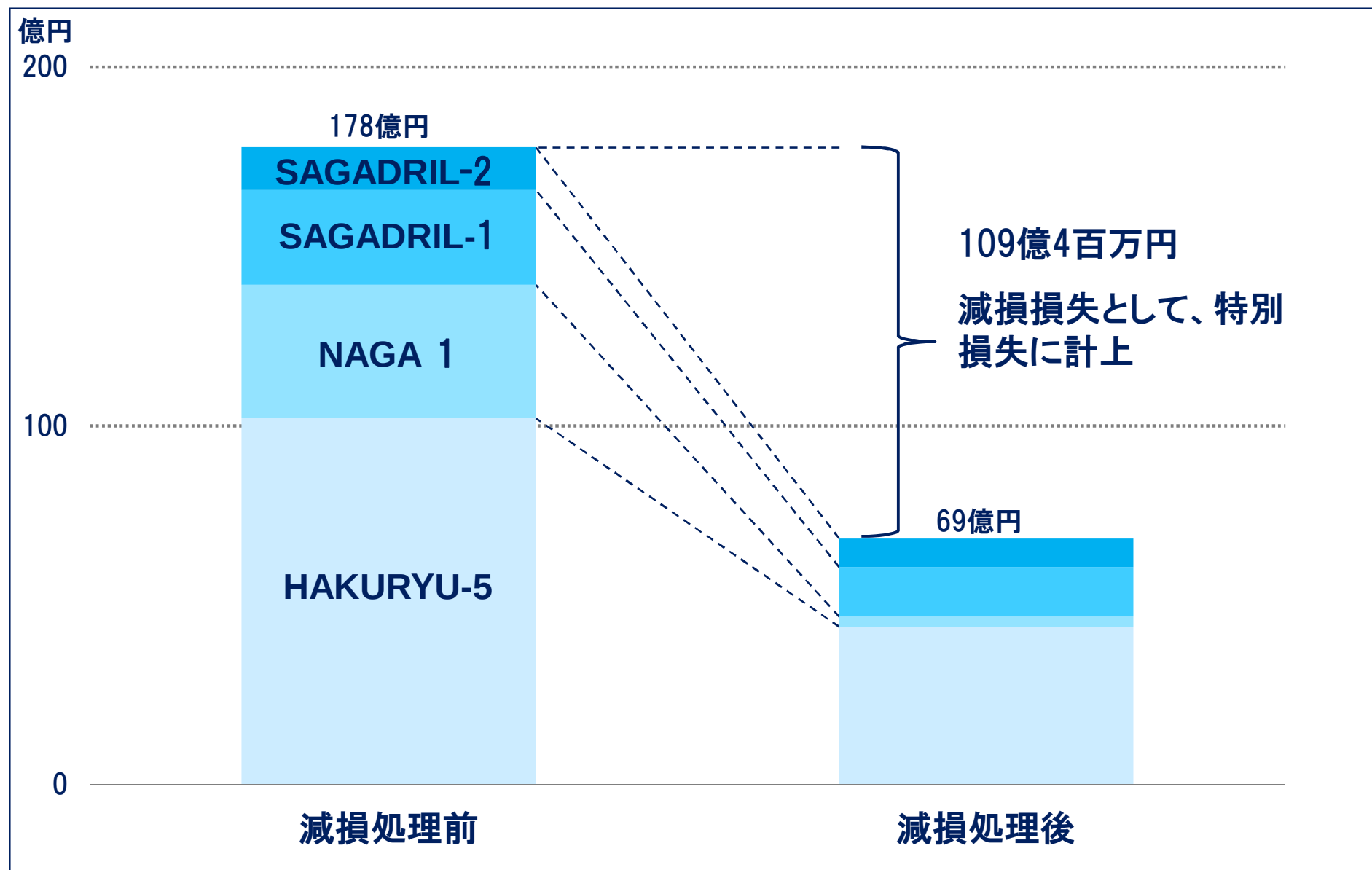


2016年3月期
当期純利益

- ※1 その他Δ4,874の主な内訳
- ・「ちきゅう」(動復員収入、商業掘削関連サービス等): Δ3,293
 - ・「H-12」(動復員): Δ2,273
 - ・「掘削技術」: +1,442
- ※2 リース契約損失引当金繰入額2,820計上
- ※3 減損損失10,904計上

2017年3月期
当期純利益

減損の対象となった4リグの減損損失



- ・「HAKURYU-10」、「HAKURYU-11」: 減損処理の対象外
- ・「HAKURYU-12」: リース契約損失引当金繰入額28億20百万円を売上原価に計上

連結貸借対照表(前期末比)

単位:百万円 (百万円未満切捨て)	2016年 3月期末	2017年 3月期末	増減	増減率	
流動資産	64,237	49,559	△14,678	△22.9%	現金及び預金 : +2,184百万円 有価証券 : △10,888百万円 営業未収入金 : △2,457百万円 未収入金等 : △3,684百万円
有形固定資産	43,658	29,121	△14,536	△33.3%	減損損失 : △10,904百万円
無形固定資産	238	188	△50	△21.0%	
投資その他	1,454	1,351	△102	△7.1%	
資産合計	109,589	80,221	△29,368	△26.8%	短期借入金 : △3,006百万円 未払費用 : △1,741百万円 リース契約損失引当金 : +2,820百万円
流動負債	19,534	17,290	△2,243	△11.5%	
固定負債	36,709	33,107	△3,602	△9.8%	長期借入金 : △2,900百万円 社債 : △775百万円
負債合計	56,243	50,397	△5,846	△10.4%	
純資産	53,345	29,823	△23,522	△44.1%	当期純利益 : △23,053百万円 為替換算調整感情 : △180百万円
負債・純資産合計	109,589	80,221	△29,368	△26.8%	
自己資本比率	48.0%	36.2%	△11.8P	-	

3. 通期業績予想

2018年3月期

代表取締役副社長執行役員

山田 健造

リグフリート操業計画

2018年3月期		1Q			2Q			3Q			4Q		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	HAKURYU-5				Gazpromneft社 ロシア								
	SAGADRIL-1												
	SAGADRIL-2												
	HAKURYU-10												
	HAKURYU-11												
	HAKURYU-12												
	HAKURYU-14											慣熟訓練 操業準備	
	NAGA 1												
	ちきゅう		JMH社 日本					JAMSTEC 日本					

契約済
 待機、保守・整備
 科学掘削
 受注活動中
 （顧客先の正式社名は巻末の略語集をご参照ください）

（注） 契約期間中でも、整備工事等のためにリグの稼働を中断させることがあります

通期連結業績予想要約

単位:百万円 (百万円未満切捨て)	2017年3月期 実績	2018年3月期 予想		増減	増減率
売上高	15,376	21,385	※1	+6,009	+39.1%
営業利益	△11,063	△6,841	※2	+4,221	—
経常利益	△11,516	△7,555	※2	+3,960	—
当期純利益	△23,053	△8,592	※3	+14,460	—

※1 売上高

- ・稼働日数の増加を見込んだことなどから、増加となる。

※2 営業利益、経常利益

- ・前期はリース契約損失引当金繰入額(2,820)を売上原価に計上していること、及び前期に減損損失を計上したことによる減価償却費減少(1,031)が増加要因となる。

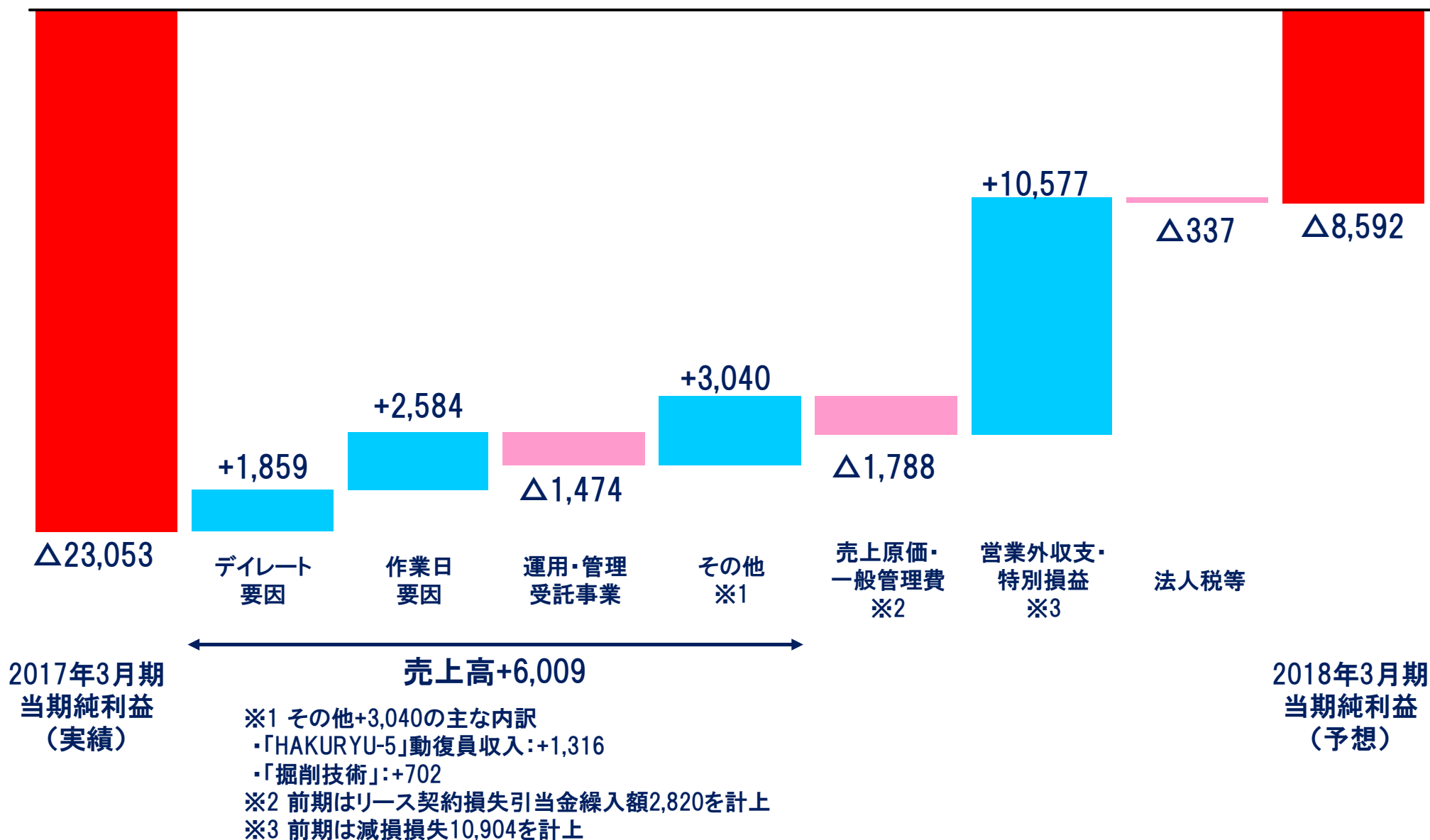
※3 当期純利益

- ・前期は減損損失10,904を特別損失に計上しているため、増加要因となる。

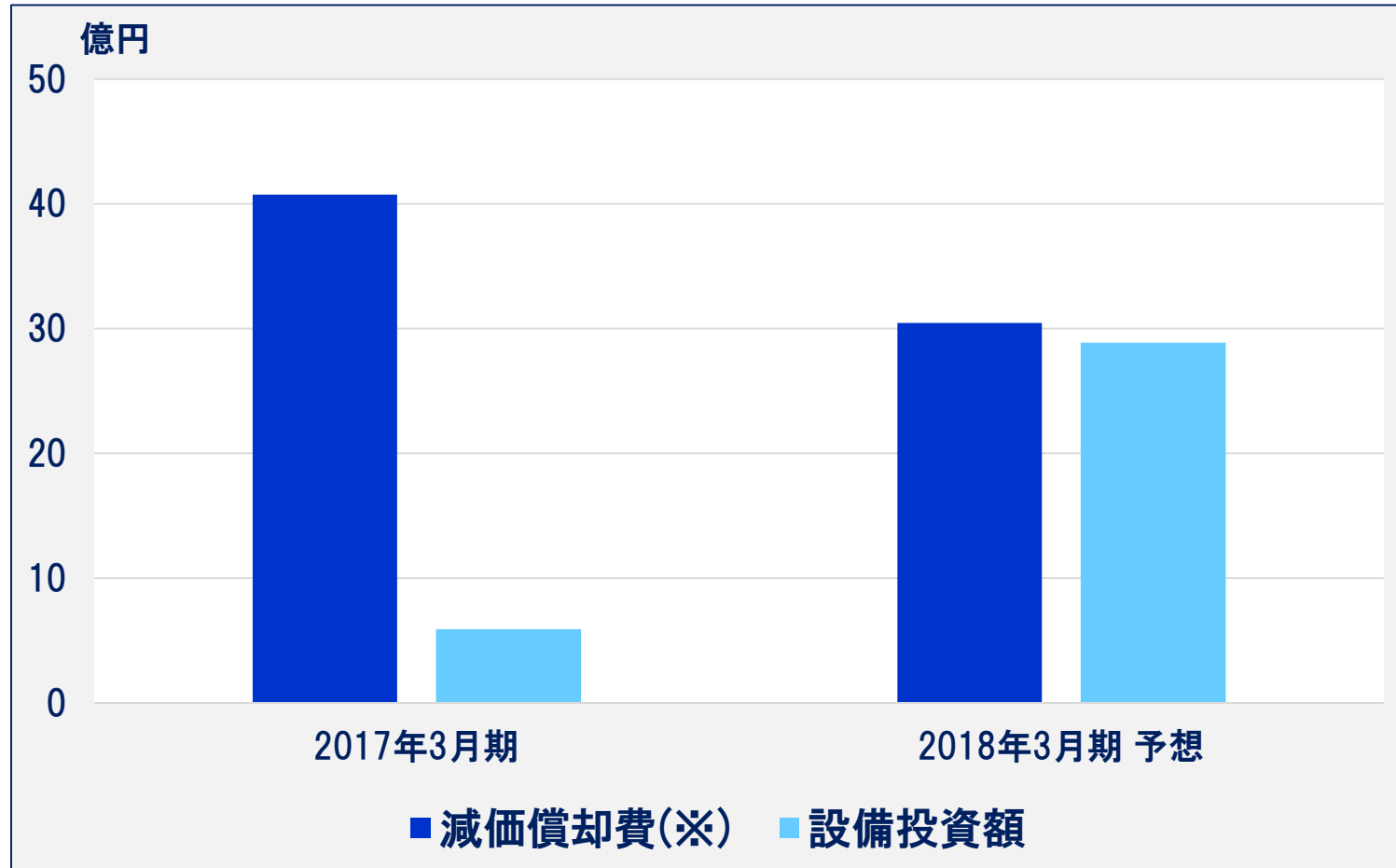
想定為替レートは110円/USD

当期純損失の減少要因分析(前期比)

単位:百万円



設備投資額は減価償却費の範囲内に



※2017年3月期に減損損失(109億4百万円)を計上したことにより、
2018年3月期以降の減価償却費は年間約10億円減少

「ちきゅう」による商業掘削



当社は、日本メタンハイドレート調査株式会社との間でJAMSTEC所有のドリルシップ「ちきゅう」による第2回メタンハイドレート海洋産出試験に関する掘削契約を締結し、4月から掘削作業を実施しています。

(1) 契約先	日本メタンハイドレート調査株式会社
(2) 操業海域	愛知県・三重県沖(第二渥美海丘)
(3) 作業坑数	2坑(約80日、動復員含む)
(4) 作業実施時期	2017年4月～6月
(5) 作業料金建て	日割作業料率方式
(6) 契約締結日	2017年1月20日

サハリンに向け曳航中の「HAKURYU-5」



(1) 契約先	Gazpromneft-Sakhalin LLC
(2) 操業海域	ロシア連邦・サハリン島北東部沖
(3) 契約期間	1坑(約130日)
(4) 作業開始時期	2017年6月(予定)
(5) 作業料金建て	日割作業料率方式
(6) 契約締結日	2017年2月21日

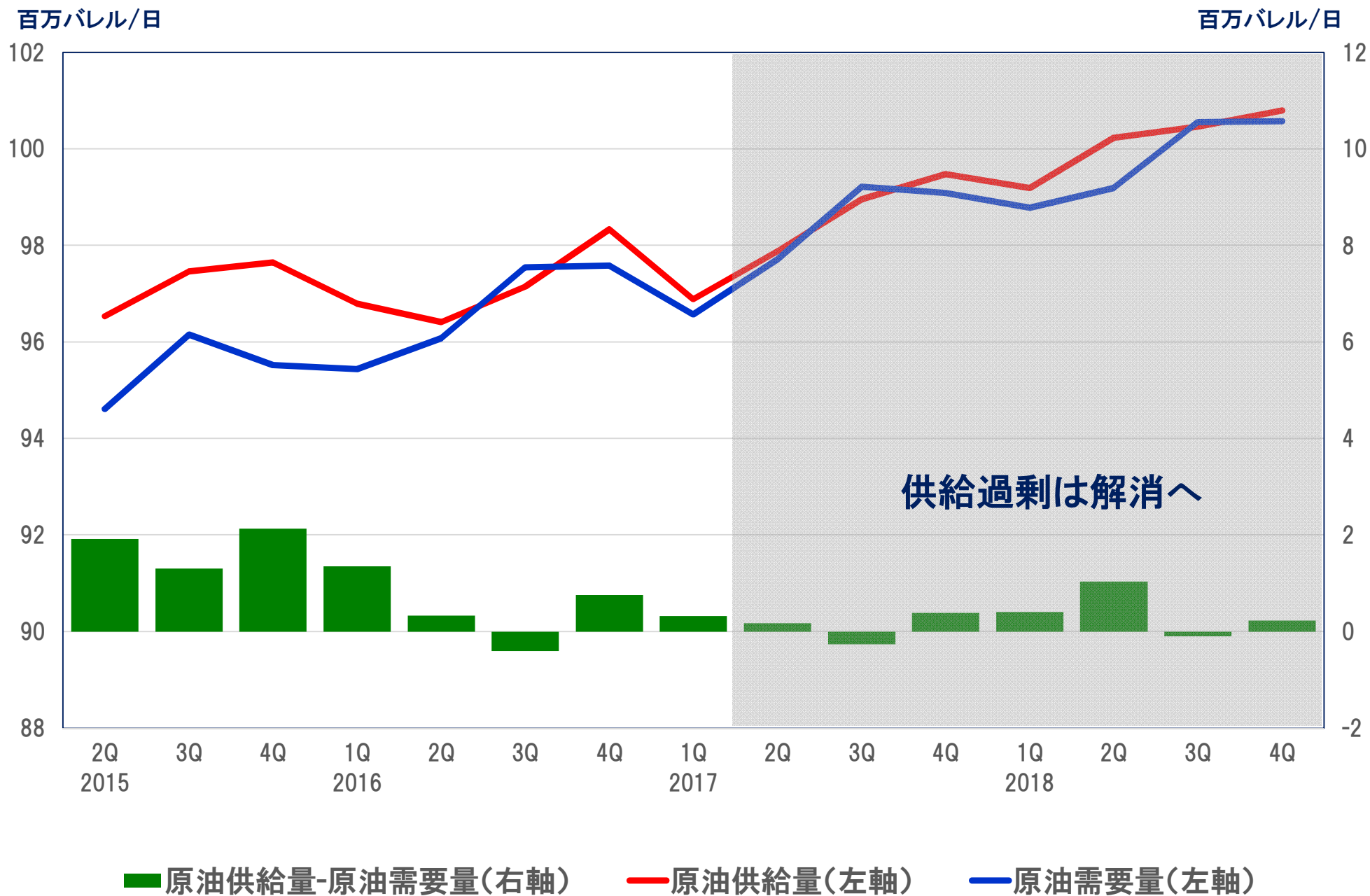
当社の連結子会社である Hakuryu 5, Inc.は、ロシア連邦所在のGazpromneft-Sakhalin LLCとの間で、セミサブ型リグ「HAKURYU-5」によるロシア連邦・サハリンⅢ鉱区のアヤシュスキー鉱区での掘削契約を締結しました。この掘削作業に向け、「HAKURYU-5」は4月下旬にベトナムを出航し、現在、操業地サハリンに向け曳航中です。

4.事業環境の変化に対応する経営戦略

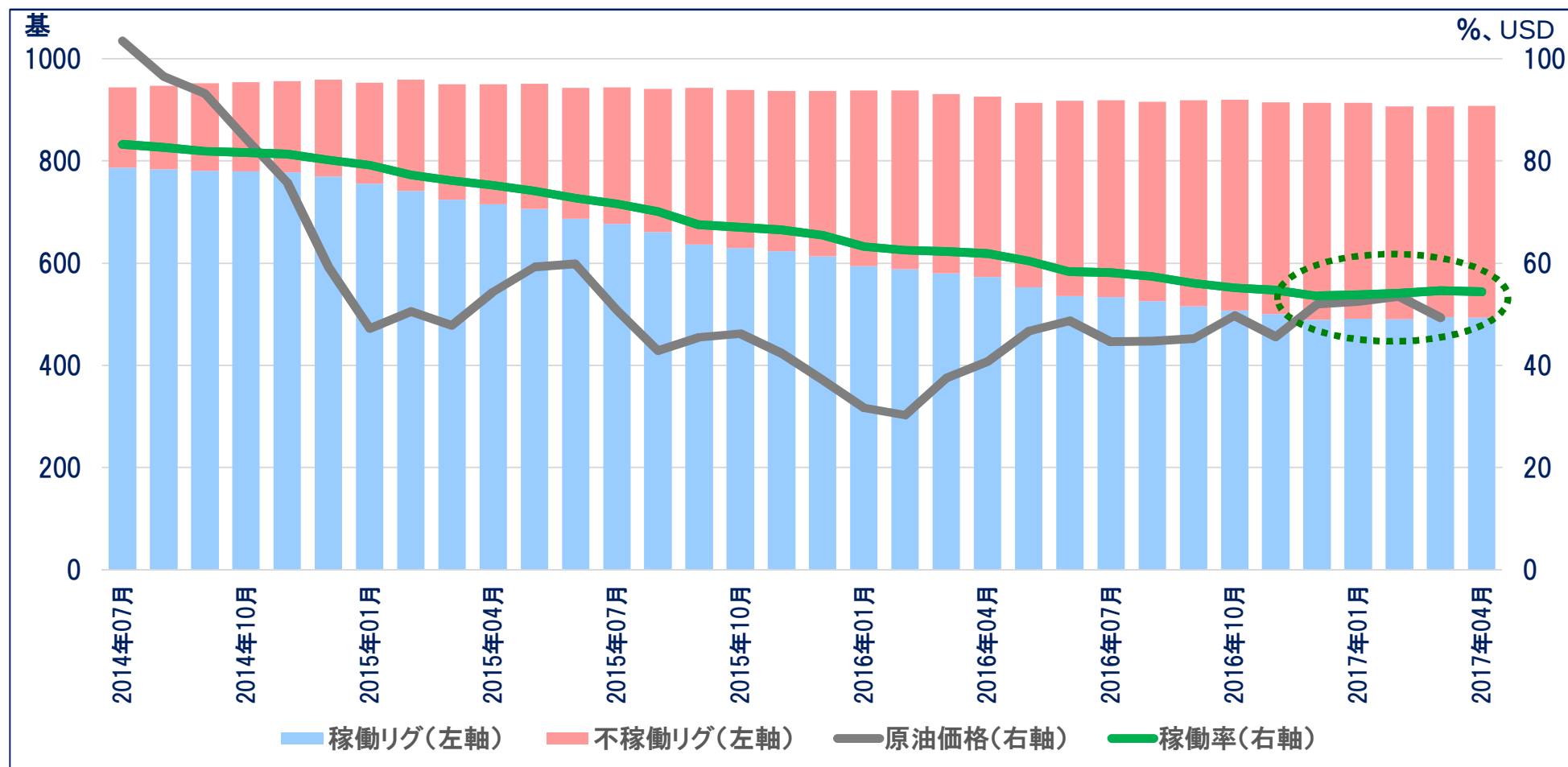
代表取締役社長

市川 祐一郎

均衡に向かう原油需給



底打ち感が出てきたリグ稼働率



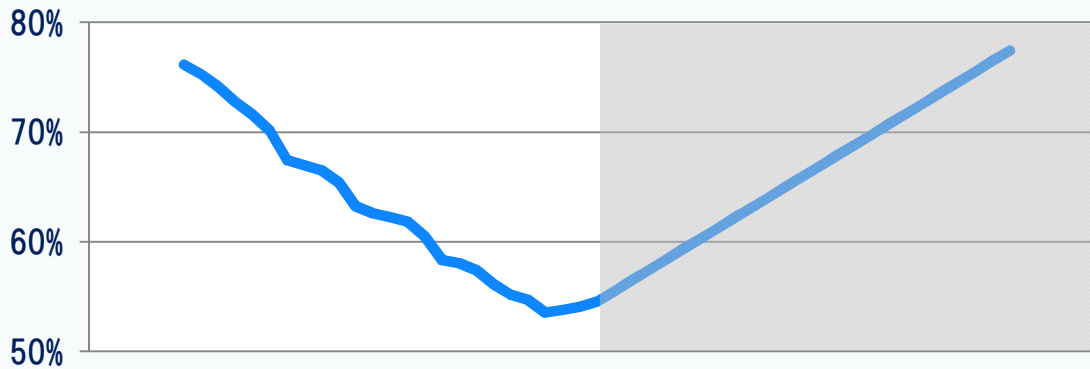
2014年7月に83.3%であったリグ稼働率は28か月連続で下降を続け、2016年12月には53.6%まで下落したが、今年に入り3か月連続で上昇

市況回復の兆しと業績反転への道筋(1)

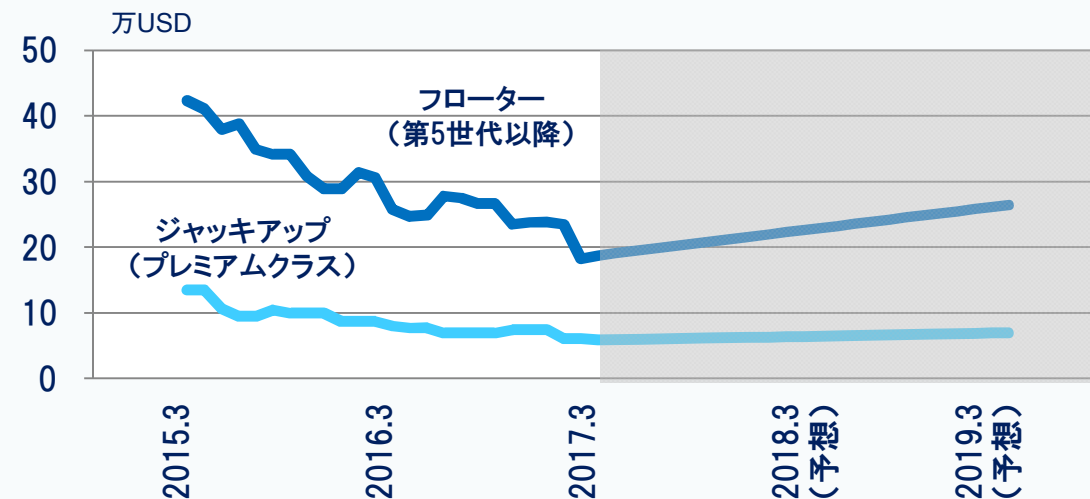
原油価格推移



リグ稼働率推移



デイレート推移

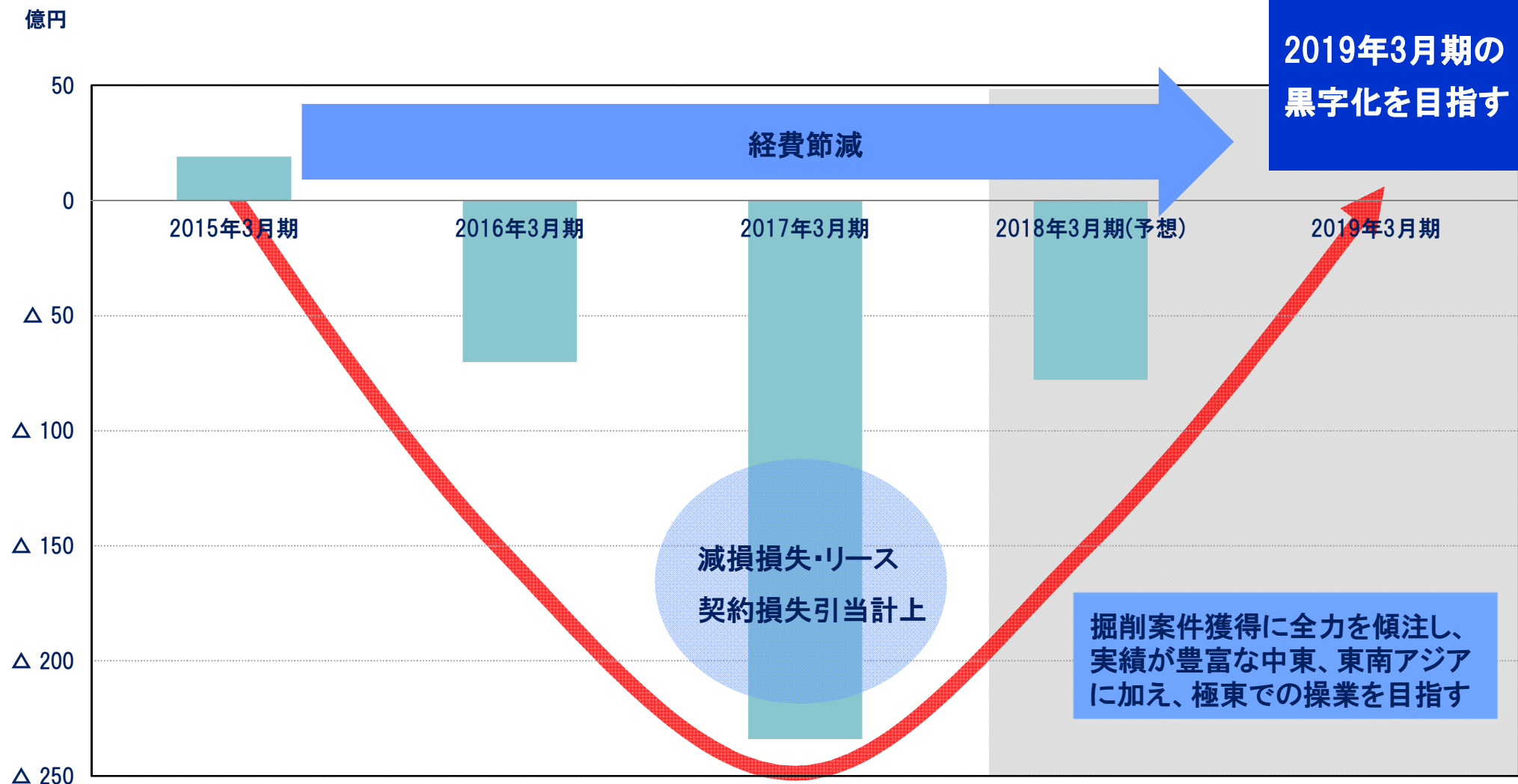


・「原油価格推移」については、2017年3月以前は WTI Spot Priceの月平均を使用し、2017年4月以降は 2019年3月に60USDに上昇する前提で作成。

・「リグ稼働率推移」及び「デイレート推移」については、2017年3月以前はIHS-Petrodata資料から、2017年4月以降はMorgan Stanley資料に基づき作成。

市況回復の兆しと業績反転への道筋(2)

当期純利益の推移



経営目標

- 事業環境変化への対応
- 安全操業体制の強化
- 将来に向けた成長機会の追求と経営資源の充実

経営戦略

◆ 受注確保への
全社的取組み

◆ 財務基盤の再構築

◆ 安全操業体制の強化

◆ 事業基盤を支える
人材の育成推進

◆ 成長機会の追求

◆ 海洋掘削技術の応用

受注確保への全社的取組み

- ◆ 総合的なマーケティング力の強化
- ◆ 当社独自の差別化路線の推進継続





◆ 経費削減による徹底した低コスト体質の構築

売上原価
節減

一般管理費
節減

- 外国人リグクルーの雇い止めによる人件費節減
- 中東で待機中のリグを一括管理することによる人件費、係留費等節減
- 修繕項目、購入物品の抑制による支出節減
- 現地経費(業務委託費、物流費)の節減
- 現地資材置場スペースの縮小
- リグの資機材、機器類、パーツ等の仕入価格引き下げによる節減
- 役員報酬減額の見直し(減額幅の拡大)、役員賞与の全額カット
- 業務効率化による人件費、旅費交通費、業務委託費等の節減

◆ 取引金融機関との一層の関係緊密化

◆ 具体的な資本政策の検討

- ◆ 統合型管理システム、HSQE-MSの周知徹底による保安意識の向上と安全管理の強化
- ◆ 費用対効果を踏まえた設備投資・維持計画の策定と実行



2015年にフランスのTotal E&Pの契約下にあった世界中のリグ45基の中から当社の「HAKURYU-10」が最も秀でたパフォーマンスを発揮したリグに選ばれ、表彰された(2016年6月)



In recognition of 2015 Best Rig Performance within Total E&P
Hakuryu-10 operated by Japan Drilling for TOTAL E&P Indonesia

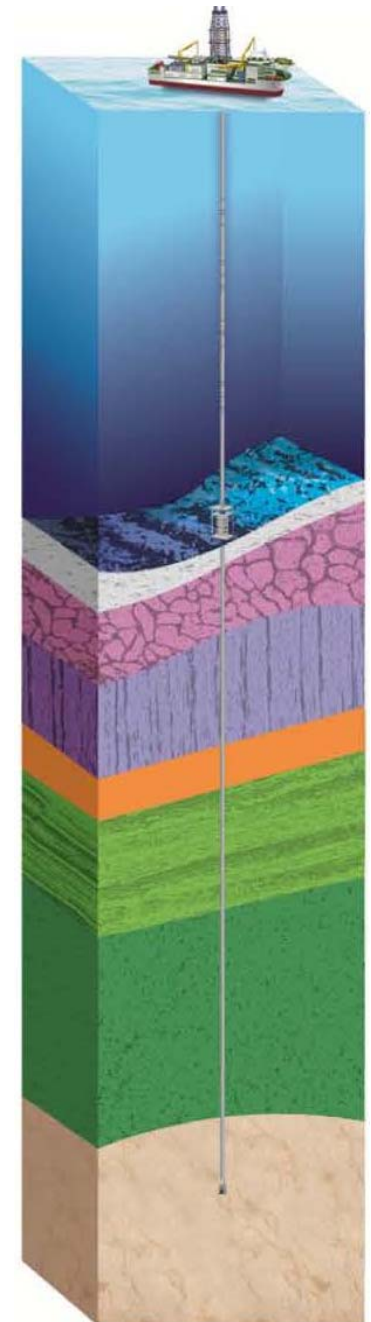


- ◆ 熟練リグクルーの経験・技術・知識の早期伝承
- ◆ 次世代リーダーを早期育成するための計画的な取組み
- ◆ 多様な人材の活用による組織の活性化

◆ 最新鋭リグへの更新継続

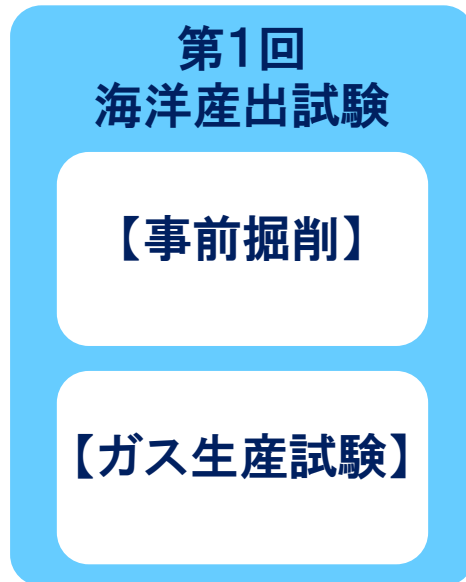
◆ 大水深リグプロジェクトの推進

◆ 北極海/高緯度海域での操業および
マントル掘削実現へのチャレンジ

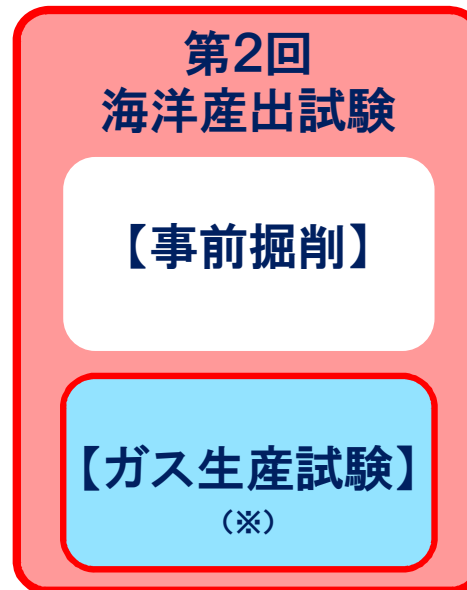


◆ メタンハイドレート開発・商業化への参画継続

平成24年度～平成25年度



平成28年度～平成29年度



平成30年代後半



※当社は、本海洋産出試験のオペレータである日本メタンハイドレート調査株式会社から受託した、産出試験の主要設備となるガス生産装置/システムの設計・製造業務を完了し、本年4月より「ちきゅう」を用いてメタンハイドレート層までの掘削作業と同生産装置/システムの組み立て、設置等の準備作業を行い、翌5月から産出試験を開始しガスの生産を確認

経済産業省が平成25年度に策定した「海洋エネルギー・鉱物資源開発計画」をもとに当社作成

◆ 我が国周辺の海洋鉱物資源開発への積極的関与

◆ 水平孔掘削事業の経営資源最適化による技術力強化と収益性改善

Bundug 社…Bundug Company Limited

Gazpromneft社…Gazpromneft-Sakhalin LLC

JAMSTEC…国立研究開発法人海洋研究開発機構

JMH社…日本メタンハイドレート調査株式会社

PCSB社…Petronas Carigali Sdn. Bhd.

PVD社…PetroVietnam Drilling & Well Services Corporation

TNK社…TNK Vietnam B.V.

Total E&P社…Total E&P Indonesie

本資料ご利用にあたっての注意事項

本資料に記載されている業績見通しや事業環境等の将来に関する記述は、様々な要因により変更となる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ、その他IRに関するご質問は、以下にお願いいたします。

日本海洋掘削株式会社 広報・IR室 電話03-5847-5862